

3. 財務の概要

【総評】

南山学園は2010年度における大型事業として、南山大学学生会館跡地へのR棟建設および北駐車場エリアへの第2クラブハウス建設を行った。R棟は、その総工費が38億4千万円（内2009年度支出分が11億69百万円）となり、フラッテンホール、教室、短期大学部教員研究室に加えて、名古屋キャンパス内に分散している施設が集約され、語学教育・国際交流の拠点となる。資金としては、第2号基本金「南山大学名古屋キャンパス施設整備資金」の一部2億5千万円を充当し、日本私立学校振興・共済事業団から29億4千万円（2009年度：12億円 2010年度：17億4千万円）の借り入れを行った。また、南山大学附属小学校第3グラウンド用地として土地の購入（64百万円）も行った。

2010年5月1日現在の学園全体の学生生徒児童数は15,432名であり、昨年度を25名上回っている。定員を充足しているものの、補助金や資産運用収入の減少等により、帰属収入は2007年度をピークに減少している。依然として景気や家計が本格的に好転するきざしがないなかで、学生生徒児童数の確保は今後とも厳しさを増していくと予測される。

企業の破綻、事業の再編・縮小等による年収の落ち込み等が原因となり、学費納入遅延および貸与奨学金未返還が各学校においても散見されるようになった。このような問題は、南山学園においても看過できない状況である。また、省エネルギーに関しては、構成員の意識改革や設備面での対応を含めて学園全体で取り組んでいる。

2010年度消費収支決算における南山学園全体の収支概括は、次のとおりである。

《帰属収入》

帰属収入は186億8千万円となり、前年比で9億34百万円減少した。

学生生徒等納付金は、137億33百万円となり、前年度比で41百万円減少した。これは、2008年度からの各高等・中学校の年次進行による授業料値上げ、および南山大学附属小学校の児童数増加があったが、他の学校では前年度に比して減少額が上回ったためである。

手数料は、その多くを入学検定料が占める。南山高等・中学校（女子部）、聖霊高等・中学校および南山大学附属小学校では受験者数が増加したが、逆に、南山大学、南山短期大学、南山高等・中学校（男子部）および南山国際高等・中学校では、受験者数が減少したため、学園全体としては7億93百万円となり、前年度比で72百万円の減少となった。各高等・中学校の受験者数については、厳しい経済情勢と公立高校授業料無償化の影響が考えられるものの、総体的には2009年度に減少した状況から回復したといえる。

寄付金は3億29百万円となり、前年度比で26百万円増加した。

補助金は27億4百万円となり、児童数が増加した南山大学附属小学校を除く全ての学校で減額となったことにより、前年度比で1億56百万円減少した。南山大学では競争的資金等の新規採択額が減少し、南山短期大学では専任教員の減少および新規事業抑制等により減少した。また、各高等・中学校の補助金収入もさらに厳しい環境となっている。

資産運用収入は、経済情勢の低迷により5億7百万円となり、前年度比で1億43百万円減少した。

資産売却差額は、21百万円となり、前年度比で3億53百万円減少した。その要因は、有価証券売却差額が減少したことおよび2009年度に計上した遊休資産の売却収入が2010年度では計上がなかったことによる。

事業収入は2億35百万円となり、前年度と同様であった。

雑収入は3億59百万円となり、前年度比で1億93百万円減少した。これは主に、2010年度退職金支出が減少したことに伴い、私立大学退職金財団および愛知県私学退職基金財団からの交付金が減少したためである。

《基本金組入額および基本金取崩額》

第2号基本金および第3号基本金については、一部組入計画を変更した結果、基本金組入額は26億9千万円、基本金取崩額は4億17百万円となった。その内訳は以下のとおりである。

- 1) 第1号基本金：組入額14億円、取崩額△57百万円。

組入：南山大学R棟建設工事、南山大学第2クラブハウス建設工事、南山大学次期事務システム構築用ソフトウェア仮勘定、聖霊高等・中学校スクールバス、南山大学附属小学校第3グラウンド用地購入等

取崩：「その他の機器備品△34百万円」他

- 2) 第2号基本金：組入額9億7千万円、取崩額△3億6千万円

組入：「南山大学名古屋キャンパス施設設備整備資金7億円」「南山大学瀬戸キャンパス施設設備整備資金3億円」「南山高等学校・中学校男子部校舎改修計画資金1億円」「聖霊高等学校・中学校校舎改修・改築計画資金1億円」「南山大学附属小学校施設設備整備資金2千万円」「南山大学名古屋キャンパス施設設備整備資金△2億5千万円（第1号基本金への振替）」

取崩：「南山短期大学将来計画資金△3億6千万円」

- 3) 第3号基本金：組入額3億21百万円。

「南山学園内連携・社会貢献支援基金3億円」他。

- 4) 第4号基本金：組入なし。

《消費支出》

消費支出は202億71百万円となり、前年度比で23億68百万円減少した。前年度比で、人件費は1億38百万円、教育研究経費は71百万円減少した。管理経費は、文部科学省からの通知により、デリバティブに係る損失額を計上したため、前年度比で増加となった。ただし、この損失額を除いた管理経費は、前年度比で2千万円減少した。教育研究経費および管理経費の減少は、各学校および法人事務局において効率的な予算執行に努めたことに加え、減価償却額が減少したためである。借入金等利息は、南山大学R棟建設等のための日本私立学校振興・共済事業団からの借入金に対する利息が発生したため54百万円となり、前年度比で28百万円増加した。資産処分差額は9億87百万円となり、前年度比で2億98百万円増加した。この主な内容は、保有有価証券の評価損および処分差額である。徴収不能引当金繰入額は、一定期間入金がない金銭債務については、回収が困難とみなして引当金計上することが適切と判断した結果17百万円となり、前年度比で15百万円増加した。

以上の結果、2010年度における帰属収入は186億8千万円、消費支出は202億71百万円となり、帰属収支差額は15億91百万円の支出超過となった。

以上